

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標」の自己評価

団体名	鳴門市
-----	-----

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
いつまでも健康でいきいきと暮らしていける									
「いきいきサロン」の開設数	集会所等の身近な場所で定期的に集まり、健康づくりや交流を深めながら気軽に楽しく過ごせる住民主体の通いの場「いきいきサロン」を支援する。		目標	60か所	65か所	70か所	(2021) 「いきいき百歳大交流会」を開催し、広報等できいきいきサロン参加者以外の参加を促すとともに、市公式ウェブサイトにていきいきサロンについてのページを新設するなど、いきいきサロンの周知を行った。	△	コロナ禍の影響により、新規開設についての相談はあるが、開設には至っていないため、高齢者等の自主活動の場に向くなど、いきいきサロンの積極的な周知に取り組む。
		58か所	実績	53か所					
「いきいきサロン」参加者数	集会所等の身近な場所で定期的に集まり、健康づくりや交流を深めながら気軽に楽しく過ごせる住民主体の通いの場「いきいきサロン」を支援する。		目標	1,020人	1,060人	1,100人	(2021) いきいきサロン参加者が減少する中、高齢者の外出機会・運動機会の創出を図るため、「GOTOサロンキャンペーン」を実施し、いきいきサロンへの参加促進を図った。	△	コロナ禍の影響により、2021年度当初のいきいきサロン参加者数は823人と、前年度から大きく減少していたが、「GOTOサロンキャンペーン」の実施などにより、参加者数はやや持ち直したところであり、引き続き、いきいきサロンへの参加促進に取り組む。
		944人	実績	948人					
「いきいき先生」派遣回数	高齢者にもっとも身近な介護予防の拠点化に向け、職能団体との連携により各いきいきサロンで様々な介護予防教室等が受けられる「いきいき先生」を派遣する。		目標	100回	110回	120回	(2021) いきいきサロン参加者のニーズや課題等を踏まえ、いきいき先生のメニューを更新し、周知・活用を促すとともに、いきいきサロンに「いきいき先生」を派遣した。	△	コロナ禍の影響により、いきいきサロンの活動自粛が度重なり、いきいきサロンの希望どおりに「いきいき先生」を派遣することができなかったため、早期に派遣できるよう、調整を行う。
		90回	実績	68回					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
介護予防に資するリーダー等 の養成者延人数（累計）	住民主体によるいきいきサロ ン活動の活性化・介護予防に 資する担い手の人材育成を図 るため、リーダー等の養成・ フォローアップを行う。		目標	200人	240人	285人	(2021) フレイルサポーター養成講 座を開催し、フレイルサ ポーターを25名養成し た。	△	コロナ禍の影響により、いきいきサ ロンの活動自粛が度重なり、各リー ダー等の活躍の場が減少したため、 そのフォローアップ研修を行いつ つ、フレイルサポーター等の養成を 継続する。
		110人	実績	160人					
フレイルチェックの実施者数	フレイルの兆候を早期に発見 し、要介護状態への移行を抑制 するため、フレイルチェッ クを実施する。		目標	700人	800人	900人	(2021) いきいきサロンにて、フレ イルチェック（SPPB測 定、体成分分析装置を用い た筋肉量等の測定、フレイ ルチェック表による簡易 チェック）を実施した。	△	コロナ禍の影響により、いきいきサ ロンの活動自粛が度重なり、全ての いきいきサロンにおいて、フレイル チェックを実施できなかったため、 早期に実施できるよう、調整を行 う。
		587人	実績	621人					
フレイルチェック実施者の 内、個別の指導に繋がった人 数	フレイルチェックの結果、フ レイルの兆候が確認された方 等に対し、運動や栄養等にか かるの個別指導を実施する。		目標	70人	80人	90人	(2021) いきいきサロンにおけるフ レイルチェック実施時に、 個別にリハビリ専門職によ る生活習慣改善等のアドバ イスを行った。	△	コロナ禍の影響により、いきいきサ ロンの活動自粛が度重なり、個別に リハビリ専門職による生活習慣改善 等のアドバイスを行うに留まったこ とから、リハビリ専門職がいきいき サロンを巡回し、個別相談に対応し つつ、個別指導につなげていく。
		-	実績	0人					
生活支援サポーター養成講座 修了者（累計）	市独自の訪問型サービス（緩 和型A）や住民主体の生活支 援サービスの担い手となる 「生活支援サポーター養成講 座」を実施し、認知症や介護 技術などを体系的に学ぶこと で、多様な担い手による魅力 ある生活支援サービスを創出 する。		目標	80人	90人	100人	(2021) 生活支援サポーター養成講 座を予定していたが、コロ ナ禍の影響により、開催で きなかった。	△	コロナ禍の影響を注視しつつ、引き 続き、生活支援サポーター養成講座 を開催するとともに、修了者を訪問 型サービス（緩和型A）や暮らしの サポートセンターなどの生活支援提 供の場へ紹介するなど、担い手の活 躍先の確保に継続して取り組む。
		69人	実績	69人					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
短期集中C型サービスの利用者延人数	運動機能・栄養改善・口腔機能向上を主眼としたC型サービスについて、地域包括支援センターや各職能団体との多職種連携を図るとともに、フレイル予防の推進など事業間連携の体制を整備する。	174人	目標	350人	450人	550人	(2021) 短期集中C型サービスを継続するとともに、運動機能にかかる通所型の短期集中C型サービスの内容の再確認・改善に向け、職能団体と協議を行った。	△	コロナ禍の影響により、利用者延人数は大きく減少しているため、各地域包括支援センターとの連携を緊密に図りつつ、各職能団体との協議を行い、効果的かつ効率的なサービス提供体制の構築を図る。
			実績	124人					
65歳以上の新規要介護等認定者の平均年齢		81.3歳	目標			上昇			
			実績	-					

地域で支え合いながら心豊かに暮らしていける

第2層協議体設置数	生活支援コーディネーターと連携し、第1層協議体の活発で有機的な活動を促進しつつ、既存の2層協議体との協働や活動支援を行うとともに、新たな第2層協議体の設置に向けた支援を進める。	3か所	目標	4か所	5か所	5か所	(2021) すでに設置されている第2層協議体における地域のニーズ把握やサービスの開発を支援するとともに、生活支援コーディネーターと連携し、その他の日常生活圏域の民生委員等へのヒアリングを行った。	△	新たな第2層協議体の設置には至らなかったものの、コロナ禍の影響により、既存の第2層協議体の活動が停滞する中で、その支援や活性化に向けた検討を中心に取り組む。
			実績	3か所					
暮らしのサポートセンター設置数	住民主体の活動の拠点となる「暮らしのサポートセンター」について、各地域の実情に即した取り組みを生活支援コーディネーターを中心に支援するとともに、新たな「暮らしのサポートセンター」の設置に向け取り組みを推進する。	3か所	目標	3か所	4か所	5か所	(2021) すでに開設されている「暮らしのサポートセンター」において、生活支援コーディネーター及び協議体と連携し、それぞれの地域のニーズに応じたサービス提供が実施できるように支援した。	○	コロナ禍の影響により、既存の「暮らしのサポートセンター」の活動が停滞する中で、生活支援コーディネーターが中心となり継続的な支援を行う。
			実績	3か所					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
暮らしのサポーターの登録者数	身近なニーズや介護保険サービスでは対象とならない困りごとにも対応できる助け合い活動の担い手として、「暮らしのサポーター」の登録を推進する。		目標	30人	45人	60人	(2021) 生活支援サポーター養成講座を予定し、暮らしのサポーターへの登録増を目指していたが、コロナ禍の影響により、当該講座が開催できなかったため、新たな「暮らしのサポーター」の登録には至らなかった。	△	コロナ禍の影響を注視しつつ、引き続き、生活支援サポーター養成講座を開催するとともに、修了者の「暮らしのサポーター」への登録を推進するとともに、担い手の活躍先の確保に継続して取り組む。
		22人	実績	22人					

住み慣れた地域で安心して暮らしていける

地域ケア推進会議の開催	市全域を地域範囲とする「地域ケア推進会議」を開催し、地域課題の共有と対応策の検討等を行うとともに、会議を通じて地域の関係者の連携強化を図る。		目標	開催	開催	開催	(2021) 「地域ケア推進会議」を開催し、日常生活圏域内の課題から、市全域を地域範囲とした対策を協議し、フィードバックを行った。	○	引き続き実施する。
		開催	実績	開催					
日常生活圏域での地域ケア会議の開催	被保険者の抱える様々な課題の解決に向け、関係する様々な支援者や関係者が検討を行い、地域の実情に合わせた地域ケア会議の重層的な推進を図る。		目標	10回	10回	10回	(2021) 個別ケア会議において出席者より個別事例における様々な課題を抽出し、それを生かした日常生活圏域での地域ケア会議を開催した。	△	コロナ禍の影響を注視しつつ、個別ケア会議を行っている地域包括支援センターにおいて、日常生活圏域での地域ケア会議の開催ができるよう取り組む。
		5回	実績	4回					
顔の見える関係会議の開催	在宅医療・介護連携に係る連携体制の強化を図るため、「顔の見える関係会議」を開催し、相互理解を深めるとともに、課題の抽出や対応策の検討、活動推進などに取り組む。		目標	2回	2回	2回	(2021) コロナ禍の影響により、医療・介護関係の多職種が一堂に会する「顔の見える関係会議」は開催できなかった。	×	「顔の見える関係会議」は、医療・介護関係の多職種が一堂に会し、顔の見える関係づくりを通じた連携強化を図ることを目的としており、コロナ禍の影響が続く中での開催手法について、検討を進める。
		0回	実績	0回					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
鳴門市在宅医療・介護ガイドの普及・更新	市民向けに医療や介護などの地域資源をとりまとめた「鳴門市在宅医療・介護ガイド」の活用を図るとともに、定期的に更新を行うなど、資源の把握と情報提供を図る。		目標	普及	普及	更新	(2021) 「鳴門市在宅医療・介護ガイド」の普及に努めるとともに、「在宅医療・介護連携推進協議会」において、改訂に向けた意見聴取を行った。	○	引き続き、市民向けの「鳴門市在宅医療・介護ガイド」の改訂に向けた意見聴取を進めるとともに、関係者向けの在宅医療・介護情報一覧の作成に取り組む。
		普及	実績	普及					
専門職別の連絡会等の設置数	市内の専門職同士のネットワークづくりや連携・協働を推進するため、「鳴門市介護支援専門員連絡会」の活動を支援するとともに、他の専門職別の連絡会等の設置を支援する。		目標	2	3	4	(2021) 「鳴門市介護支援専門員連絡会」の活動支援を行ったが、コロナ禍の影響により、他の専門職別の連絡会の設置に向けた検討が進まず、新たな連絡会の設置には至らなかった。	△	「鳴門市介護支援専門員連絡会」の活動支援を行うとともに、コロナ禍の影響を注視しつつ、他の専門職別の連絡会等の設置に向けた連携・支援を行う。
		1	実績	1					
医療介護関係者研修会の開催	医療・介護分野における職種の質の向上及び相互理解を深めるため、多職種向けの研修会の開催に取り組む。		目標	4回	5回	6回	(2021) 介護支援専門員・医師・薬剤師・訪問介護職員を対象にオンラインで「服薬管理における医療と介護の連携」についての研修会を開催した。	△	コロナ禍の影響を注視しつつ、対面またはオンラインでの研修会の開催を推進する。
		2回	実績	1回					
市民向けセミナーの開催	医療・介護従事者を含め、市民に広く開かれた市民公開講座を定期的に開催し、在宅医療やその機能等の紹介や在宅医療・介護連携の必要性などの普及啓発に取り組む。		目標	開催	開催	開催	(2021) コロナ禍の影響により、「市民向けセミナー」は開催できなかった。	×	コロナ禍の影響を注視しつつ、市民向けセミナーの開催手法について、検討を進める。
		未開催	実績	未開催					
介護者家族向けの支援事業の実施 (排泄障害や摂食嚥下への対応など介護技術の向上に向けた取り組み)	介護者家族の身体的・精神的な負担の軽減を図るため、在宅生活を支えるサービスや相談体制の充実、多職種連携による在宅環境の調整等の支援に取り組む。		目標	実施	実施	実施	(2021) 家族介護教室の開催等を各地域包括支援センターへ委託し、実施するとともに、「介護者家族の会」と連携し、介護者家族への支援を進めた。	○	引き続き実施する。
		実施	実績	実施					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
訪問リハビリテーションの利用率		6.97%	目標	現状値以上	現状値以上	現状値以上			
			実績	-					
通所リハビリテーションの利用率		14.07%	目標	現状値以上	現状値以上	現状値以上			
			実績	-					

誰もが尊厳をもってともに暮らしていける

認知症初期集中支援チームにおける医療・介護サービスにつながった人の割合	基幹型地域包括支援センターに設置した「認知症初期集中支援チーム」の活動強化を図り、認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供につなげる。	77.0%	目標	80.0%	80.0%	80.0%	(2021) 認知症初期集中支援チームにおいて12件対応し、終結している7件中6件が医療・介護サービスにつながった。	○	引き続き実施する。
			実績	85.7%					
認知症サポーターの養成数 (累計)	認知症サポーター養成講座の開催を通じて、認知症についての正しい知識と理解を啓発する。	8,434人	目標	8,900人	9,400人	10,000人	(2021) アルツハイマー月間に合わせた、鳴門市立図書館などでの一般市民向けサポーター養成講座を開催するなど、サポーターの養成を行った。	△	コロナ禍の影響を注視しつつ、認知症サポーター養成講座の開催を推進する。
			実績	8,714人					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
認知症サポーターステップアップ講座の受講者数(累計)	認知症サポーターを対象としたステップアップ講座を開催し、認知症への理解をより深めるとともに、地域での実践的な活動につながるよう支援する。		目標	40人	60人	80人	(2021) 認知症サポーターステップアップ講座(申込1名)を予定していたが、コロナ禍の影響により、開催できなかった。	△	コロナ禍の影響を注視しつつ、認知症サポーターステップアップ講座の開催を推進する。
		24人	実績	24人					
認知症相談窓口の認知度	認知症相談窓口として、「もの忘れ相談窓口」や介護者家族の会による定期相談会を継続実施するとともに、その周知を図る。		目標			26.0%	(2021) 市内全戸に配布した「インフォーマルサービス一覧」ガイドブックの中で、「もの忘れ相談窓口」や介護者家族の会による定期相談会の周知を図った。	○	引き続き、各種イベントや媒体などを通じて、認知症相談窓口の周知を図る。
		19.1%	実績	-					
認知症高齢者等SOSネットワークメールの配信登録者数	行方不明となった認知症の人の早期発見を目的とした「認知症高齢者等SOSネットワーク」のメール配信サービスの周知・啓発を行い、行方不明者発生情報メールの受信登録者の増加を図る。		目標	1,200人	1,600人	2,000人	(2021) 認知症サポーター養成講座をはじめ、各種講座・イベント時に周知を行った。	△	引き続き、各種講座・イベントや媒体などを通じて、メールの受信登録や認知症高齢者等事前登録の周知を図る。
		841人	実績	1,030人					
権利擁護に関する相談の延べ件数	高齢者虐待の防止や成年後見制度の利用促進など、高齢者の権利擁護に関する相談窓口の周知・啓発を行い、必要な支援につなげる。		目標	80件	100件	120件	(2021) 高齢者総合相談窓口や成年後見制度相談窓口において、相談対応を行うとともに、市内全戸に配布した「インフォーマルサービス一覧」ガイドブックや市広報などにより、相談窓口の周知を図った。	△	引き続き、各種媒体などを通じて、権利擁護に関する相談窓口の周知を図る。
		53件	実績	38件					
権利擁護に関する講座等の開催回数	高齢者虐待の防止や成年後見制度の利用促進などにかかる専門職による出前講座や「いきいき先生」派遣事業を行うことにより、高齢者の権利擁護に関する周知・啓発を図る。		目標	3回	5回	7回	(2021) 「いきいき先生」派遣制度により、成年後見制度の周知・啓発を図った。	△	引き続き、専門職による出前講座や「いきいき先生」派遣事業により、権利擁護に関する周知・啓発を図る。
		2回	実績	1回					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
福祉避難所設置運営訓練の実施	福祉避難所運営マニュアルの周知を図るとともに、行政と事業者等との連携による模擬避難訓練や事業者向け講習会等を実施する。		目標	検討	実施	実施	(2021) 福祉避難所の指定事業者との意見交換を行い、コロナ禍の状況を踏まえた、避難者の受入可能人数や受入場所などの見直しを行った。	○	福祉避難所運営マニュアルの精査・見直しを行いつつ、模擬避難訓練などが実施できるよう、福祉避難所の指定事業者との連携を密に行う。
		未実施	実績	検討					

社会参加しながら生きがいをもって暮らしていける

老人クラブの登録者数	老人クラブ活動の活性化を通じ、高齢者の積極的な地域参加や生きがい・健康づくりを進め、高齢者福祉の向上を図る。		目標	2,360人	2,360人	2,360人	(2021) 高齢者の自主的な交流の場である、いきいきサロンの設立・運営に向けた単位老人クラブの取り組みへの支援を継続した。	△	老人クラブ登録者数は年々減少傾向にある中で、コロナ禍の影響により、各単位老人クラブの活動も制限されるなど、厳しい環境が生じているため、今後も引き続き、いきいきサロンとの連携や地域での活動時における加入促進などの支援を行う。
		2,171人	実績	1,994人					
ボランティアポイントの登録者数	高齢者のボランティア活動や社会貢献活動への参加を促進するため、介護保険施設や介護予防事業等を行うボランティア活動の実績に基づき、評価ポイントを付与するボランティアポイントの登録者の増加を図る。		目標	140人	160人	185人	(2021) 市が養成しているフレイルサポーターなどの活動を本事業に位置付けるなど、事業内容の見直しを行った。	△	コロナ禍の影響により、介護保険施設等での活動が激減しており、当該場所以外での活動の活性化に向け、取り組みを進める。
		96人	実績	88人					
地域活動に参加している高齢者の割合			目標			上昇			
		65.1%	実績	-					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
閉じこもりリスクのある高齢者の割合		17.7%	目標			減少			
			実績	-					

介護サービスの質の向上及び適正実施に向けた取り組み

介護相談員の登録人数	介護相談員の派遣施設の拡充に向け、介護相談員の登録人数の増加を図る。	16人	目標	18人	20人	20人	(2021) コロナ禍の影響により、介護相談員が介護保険施設等への立ち入ることが困難になる中、オンラインにより、施設入所者との面談を行った。	△	介護相談員派遣事業は、介護相談員が介護保険施設等に出向いて、利用者の疑問や不満、不安を受け付け、問題の改善や介護サービスの質の向上につなげることを目的としており、コロナ禍の影響により、介護保険施設等に出向くことが困難な中、当該目的の達成が難しい状況にある。
			実績	15人					
市内事業所介護職員の離職率		15.0%	目標			減少			
			実績	-					
認定調査件数に占める事後点検の割合	認定調査の内容について、市職員が認定調査票の審査を通じて、事後点検することにより、適切かつ公正な要介護認定の確保を図る。	100.0%	目標	100.0%	100.0%	100.0%	(2021) 認定調査票を全件点検し、評価軸の定義に沿った選択がされているかを確認するとともに、二次判定の要素である介護の手間を表す特記事項の記載内容を確認した。	○	引き続き実施する。
			実績	100.0%					

項目	目標設定の考え方 (現状・課題)	2020 実績	年度	2021	2022	2023	2021年度 取組内容	自己 評価	今後の 課題・対応策など
居宅介護支援事業者数に占めるケアプラン点検を実施した居宅介護支援事業者数の割合	受給者が真に必要とするサービスを確保するとともに、その状態に適合していないサービス提供を改善するため、ケアプラン点検を実施する。		目標	100.0%	100.0%	100.0%	(2021) 居宅介護支援事業所に対して、6月に在宅サービスを利用している被保険者全員のケアプランの提出を依頼し、全件チェックを実施した。	○	引き続き実施する。
		100.0%	実績	100.0%					
所管する介護サービス事業所に対する実地指導の実施率	介護サービス事業所における法令等の遵守や虐待防止、サービスの質の確保等を図るため、実地指導を定期的実施する。		目標	3か年平均で33.3%以上			(2021) 認知症対応型共同生活介護や居宅介護支援事業所などへの実地指導を実施した(30事業所/62事業所)。	○	引き続き実施する。
		0.0%	実績	48.4%					

全体的な成果指標

主観的健康感が高い高齢者の割合			目標	→ 上昇					
	76.0%	実績	-						
主観的幸福感が高い高齢者の割合			目標	→ 上昇					
	54.3%	実績	-						

※ 行数が不足する場合等は、適宜追加してください。